

九十四歳の歌舞伎役者 中村小山三

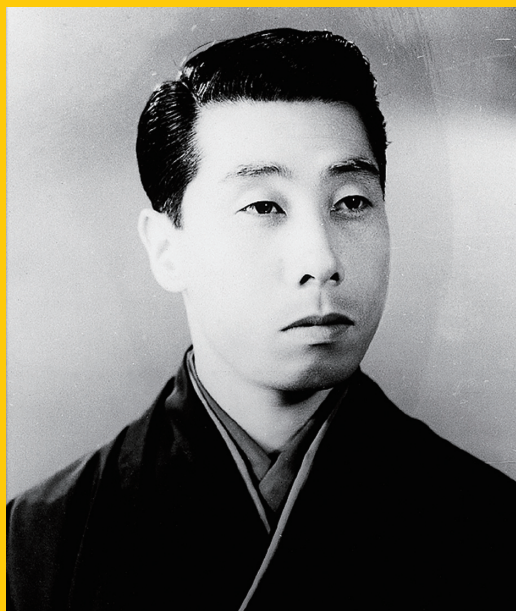
伝統や歴史を重んじつつ、大好きになるまでのきっかけを見つけることが難しかったり、少し敷居が高いイメージもあるという点で 歌舞伎とジャズは似ているのかもしれない…。

大正九年生まれで、今年八月二十日の誕生日で九十四歳を迎えた現役最古参の歌舞伎役者である中村小山三さん。四歳で十七代目中村勘三郎に入門以来、中村屋三代に仕える女形として、近年はテレビのドキュメンタリー番組でも脚光を浴び、昨年には自身の著書『小山三ひとり語り』を出版し、小山三ストラップも大人気！

著書には書かれていない貴重な話も含めて、歌舞伎の歴史そのもののような存在の小山三さんの大変貴重なインタビューとなりました。

2014 年 11 月 28 日（金）都内某所にて

【取材・文：加瀬正之／取材協力：株式会社ファーンウッド】



インタビュー前にジャズや音楽はほとんど聴かないとおっしゃっていた小山三さん。著書の中にジェームス・ディーンの大ファンで、若い頃はあまりの熱の入れようから“ジミー”というあだ名も付けられていたという記述を見つけ、ジャケットにジェームス・ディーンの渋くてカッコいい表情がアップで写っているチェット・ベイカーの 1956 年録音作品で、映画『ジェームス・ディーン物語』で使われた音楽をジャズ化したアルバム『ジェームス・ディーン・ストーリー』の CD をプレゼントさせて頂きました。

あら～、ジミー！ 昔から大好きで映画『エデンの東』は何回も見ましたよ。銀座の松坂屋で彼の追悼の写真展が開かれていた時があって、その時は歌舞伎座から毎日通いました。来客用にサインするテーブルにも毎日サインしましたよ。本や写真集も結構買いましたし、彼の演技が好きだったんです。監督の言うことを聞かない人だったみたいだけど、自由に演じている所が好きだったの。最近の俳優さんでは『仁ー JIN ー』で坂本竜馬役をやった内野聖陽は好きな俳優ね。ジミーみたいに自由で楽しくやっているのがとてもいいし、自由にやれるっていうのは遊びがあって、余裕があることなんですよ。それは天性のものですからね。

●若い頃も音楽はあまり聴かれなかったのですか？

私は音楽のことは全然知らないんですけど、ベートーベンが好きだったの。あと、松竹から東宝劇団に行った時に、あそこは女優さんが多いから現代劇があるでしょ。そうすると、どうしても音楽が入ったりするんです。そのうちに『ボーギーとベス』っていう芝居をやったんですよ。ミュージカルみたいに歌がたくさんあったので、一か月間稽古したんです。それで未だに時々、その頃歌った歌を思い出すことはありますね。映画はよく観ました。邦画はあまり観なかったんですけど、洋画が好きだったんです。イングリッド・バーグマンとかも好きだったですね。それと、フレッド・アステアとジンジャー・ロジャースが主演している『踊らん哉』っていう映画を観たんですけど、ボレロとかタンゴとかが何かとても魅力的でね。昔は日本の映画館では、必ずスクリーン横に活動弁士（映画説明者）と伴奏音楽が付いていたりして、いい時代でした。それから、暇があると年中、宝塚も観に行ったりして、踊りを覚えちゃったのもあるんです。その頃に好きになった歌が「モンテクリスト伯爵（岩窟王）」っていう曲。あの頃の時代は凄かったんですよ。葦原邦子、小夜福子とかが人気がある時代で、グランドレビューなんて本当に素

晴らしかったです。あと、糸井しだれっていう人がいてね。随分懂れたりして、一緒に歌ったりなんかしましたね。

●公演でよく海外にも行かれたそうですね？

ニューヨークには随分行きましたね。5回位行きました。初めて行った時はびっくりしちゃいましたね、いい所で。でも、英語が喋れないから、レストラン行っても注文するのが大変でした。それで、隣のテーブルの人がオムレツを食べているのを見て、オムレツが食べなくなったの。でも、オムレツって言っても全然分からないし、仕方がないから鶏の真似してね（笑）。手で羽根を広げてコケツコケツと泣きながら首を前後に動かして、卵を産むジェスチャーをしたの（笑）。周りのお客さんもびっくりしていたけど、そしたら分かってくれたのよ（笑）。ニューヨークはね、当時喫茶店というのがなかったの。夏でしたから、アイスクリームが食べたくてね。向うはアイスクリームで有名なけど、種類がいっぱいあるし、何て注文していいか分からないでしょ。パニラが食べたかったんだけど、パニラを通じなくてね（笑）。それで、お店の人にストロベリーとかチョコレートとか順番に種類を言ってもらって、最後にパニラが出て「それ、それ！」って言ってやっと分かったりもしたんです（笑）。そういう楽しい思い出は随分ありますね。また、ドイツに行った時は水がないからビールばかり飲んでいました。喫茶店に行っても水なんか出さないし、水は別にお金を取るくらいでしたからね。あと、ワインを飲み始めたのもポルトガルのリスボンですよ。あそこは白夜ですね。銀行が一日中開いてるの。昔はお金の価値も違うでしょ。両替したらお札がものすごい量になっちゃってね、お財布に入らないくらい（笑）。リスボンで撮った写真があるんだけど、その時の写真が好きで引き伸ばして家に飾ってあります。

●何か楽器は弾かれていましたか？

三味線はいいですよ。昔は稽古してちょっと弾いていましたけど、今はもう弾けないですけどね。あと、琴は好き。亡くなった姉が琴を弾いていましたからね。私は踊りの稽古ばかりで弾けなかったんですけど。

●内弟子の頃、稽古は大変だったのですか？

内弟子になってからは稽古どこじゃなかったんですよ、忙しくて。朝早く起きて家中の掃除をして、ワンちゃんを二匹いたんで、ワンちゃんを散歩に連れて行って、それから稽古に行っていたんで、もう大変だったですよ。昔はお稽古ってほとんど毎日のようにあったんです。毎日永代橋まで通っていたんだけど、時々さぼっちゃうんですよ（笑）。銀座に映画観に行ったりしてね（笑）。それからその足で楽屋に入るんですけど、結局師匠にばれて、怒られちゃったりしてね（笑）。そう



小山三さん近影、楽屋にて
「撮影：光齋昇馬 写真提供：演劇出版社」

いうことが何度かありました。芝居も観ましたし、あと、寄席が好きでね。先生（十七代目 勘三郎）のお母さんが寄席の娘で、私のおじいさんが今でいう寄席のプロデューサーみたいなことやっていたんで、その関係で弟子入りしたんですからね。今はもうないですけど、当時人形町の角に「人形町アパート」ってあったんですよ。東宝劇団に行ってからそこに引っ越して、そこから内弟子になったの。その時に「鈴本」っていう寄席がすぐそばにあって、上野にも「鈴本」って寄席がありましたし、そこから中の寄席に毎日のように行っていましたよ。文楽とか志ん生とかが好きでね。いいもんでしたよ。寄席は話術が凄いから勉強になるんですよ。落語家の人も歌舞伎を観ると勉強になると言って。芝居が終わって一緒に飲んだりして、友達になりました。遊びたい盛りだったんですね。だから、内弟子の時は随分いろいろな思い出がありました。

●歌舞伎の魅力とは何ですか？

豪華さですね。また世話物の「四谷怪談」「髪結新三」などを観ると、歌舞伎って面白いなって思ってもらえるのではないのでしょうか。昔はいわゆる新歌舞伎と言って、長谷川伸とか、岡本綺堂、大仏次郎に宇野信夫ね。そういう素晴らしい劇作家がいたんです。私は4歳から歌舞伎を始めたんだけど、歌舞伎の魅力を知ったの



『祇園囃子』舞妓
(上演年月不明)

は東宝劇団に行ったおかげなの。歌舞伎の世界は東宝劇団の世界と全然違って、東宝劇団は現代劇が多かったんだけど、何年かに一回歌舞伎をやっていたんです。その時に歌舞伎の魅力を知りましたね。

●歌舞伎未体験の人は歌舞伎のどこに注目すべきですか？

やっぱり、役者を観ることですね。役者の台詞・動きを観てほしいです。でも、中には本当に詳しくてびっくりするような人もいますよ。よく手紙をもらったりするんですけど、若い人でもこんなに良く知っている人もいるんだなって、こっちがどきっとするような詳しいことなども書いてあったりしてね。そういう人がいるのは嬉しいし、頼もしいと思いますね。

●次の公演は決まっていますか？

はい、決まりました！ 来年平成 27 年 1 月に歌舞伎座で行なわれる松竹創業 120 周年『壽 初春大歌舞伎』の屋の部「一本刀土俵入り」(P16 参照)に出ることになったんです。幸四郎さんに声を掛けてもらって、有難いと喜んでお受けしたんです。やっぱり舞台に出たいですし、舞台に出てないとダメなんですよ。本当に有難いことです。

●小山三さんの健康の秘訣は何ですか？

別にこれっていう秘訣はないんだけど、朝は決まって生野菜とおみおつけ、のり、漬物、あと、納豆は体に良いので必ず食べてます。歳を取っているので量はそれほど食べられませんけどね。お寿司も好きなんですけど、今ではもう二貫くらいしか食べられなくて、食べに行くのも面倒くさくなっちゃってね…。でも、本当のことを言うと、外食をしなくなったのはワンちゃん（愛犬のガルボこと、ガルちゃん）が亡くなってからね…。

その後、愛犬ガルちゃんについて語ってくれた小山三さん。いつも肌身離さず大切に持ち歩いているガルちゃんの写真も見せてくれました。

六年間一緒にいたんです。来年がちょうど七回忌ですね。今でも朝晩ちゃんとお線香をあげています。それで、“ガルボ”って名前を付けたのは、女の子だから先生（十七代目 勘三郎）の好きだったアメリカの女優グレタ・ガルボの“ガルボ”をもらったの。とても利口でね。毎晩夜は抱いて寝てましたよ。あと、半ぺんが好きでね。先生（十七代目勘三郎）と同じで日本橋の「神茂」の半ぺんじゃないとダメだったのよ。それで、その「神茂」の半ぺんを買いに行ったら、帰りの車の中でガルが亡くなったって電話を受けたんです…。すぐに病院に行ったら、何時間も泣きっぱなしでした。その後、お通夜もしてね。今でも散歩している犬やテレビとか映画でワンちゃんが出るのとよく見えますよ。

●小山三さんの夢は何ですか？

夢はもうないです(笑)。私たちくらいの歳になるとね、夢なんてないですよ。ただ、舞台に出たいだけです。長生きとかそんなこと考えなくて、丈夫で元気で舞台に出ているだけでいいです。

最後に読者プレゼント用に小山三の著書『小山三ひとり語り』にサインを頂きました。

私は無学でね、小学校もろくに行かないで一年落第してるの。内弟子になったでしょ？ 小学校を卒業してから友達が恋しかったんで、友達に手紙を書くのに本とか新聞とかを見て漢字を覚えたの。昔は新聞にもかなが振ってあったんですよ。計算も全然だめだったけど、計算は麻雀で覚えたの(笑)。

残念ながら、ここではちょっと書けないような貴重なエピソードなどもたくさん語って頂きましたが、その記憶力とお話の面白さには脱帽、正に人間国宝のような小山三さんでした。この小山三さんのインタビューを通して、歌舞伎ファンの方々がジャズに興味を持って頂き、ジャズ・ファンの方々が歌舞伎に興味を持って頂けるような機会になれば幸いです。

必読&必見、小山三さんの著書！

小山三ひとり語り

中村小山三 演劇出版社

本文 285p
2013 年 10 月 28 日発行
定価 ¥1,900 (税別)

大正十三年、四歳で十七代目中村勘三郎に
入門以来、中村屋三代に仕える女形。
九十三歳の歌舞伎役者

【目次】

小山三思い出写真館
長いわよ、話はいっぱいあるんだから
四歳の歌舞伎役者
浅草の落第生
ごまかしの天才
半ぺん一枚のおつかい
東宝劇団の日々
林長二郎、現る
道頓堀芝居
即時帰郷。
戦地の女形
軍艦イルミネーション
歌右衛門の手料理
お味の柱巻き
九十歳の地獄宿
襲名の儀
もしほとしほみ

会長からの贈り物
すみだ劇場の夏
みのり座騒動記
「若草座」の人々
ナイショの話
後見の二枚扇
腋の女たち
炭木の糸針
ブロードウェイの大向う
勘三郎からの頼まれごと
野分姫、逃走！
女形の黒四天
天覧の歌舞伎
カフェと芝居茶屋
六十年目の恩返し
小山三さんへの三十三の質問
参考 主な登場俳優略歴



中村小山三

小山三ひとり語り

大正十三年、四歳で十七代目中村勘三郎に
入門以来、中村屋三代に仕える女形。

九十三歳の歌舞伎役者

演劇出版社

大人気&現在入荷待ち状態！

小山三ストラップ

《素顔》&《女形》

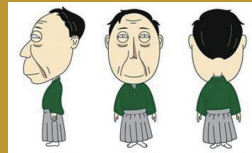
販売価格：¥800

(消費税込、送料別)

2014 年 12 月下旬入荷予定です！

販売：株式会社ファーンウッド

<http://www.fernwood.jp/webshop.html>



《素顔》



《女形》

小山三さん直筆サイン入り

著書(1名)プレゼント！

件名に「小山三さんサイン入り著書プレゼント係」と明記の上、①～⑧の必要事項をご記入頂き、Eメールにて thewalker@k07.itscom.net 宛てにお送り下さい。

【必要事項】

①氏名 ②郵便番号 ③送付先住所 ④性別 ⑤年齢

⑥職業 ⑦当インタビュー記事の感想 ⑧本誌の感想

*当選は発送にて代えさせていただきます。

中村
小山三